月刊自治研 3 2023
vol.65 no.762

グラビア	地域を支える人 小野正嗣さん・山口県萩市		1
発掘！地域の希望のタネ	〈オイカワデニム〉宮城県気仙沼市		5
給食のじかん	〈鶏肉のすこ醤油だれかけ〉福井県大野市	澤田通代	6
書評	松井一洋 著『市民防災読本』	菅原敏夫	8
焦点	「所有者不明土地問題」対策・元年	足立清人	10

特集 みんなで支える地域の防災

みんなで取り組む地区防災計画を みんなで取り組めるようにするために	磯打千雅子	16
平時の地域コミュニティ活動が生み出す防災力	竹内裕希子	25
高層住宅の防災対策—東京都港区の取り組み	鳥居誠之	34
大規模災害発生時における外国人を支える —岡山県総社市	譚　俊偉	40
災害から自分を守る「防災・減災教育の取り組み」 —非常用設備の維持管理からはじめる『生きる力』の育成	野島邦彦	46
「高校生ドローン防災航空隊」の取り組み —静岡県掛川市	花村芳樹	51

ウェブセミナー	若新雄純と考えるイマドキ仕事観	大森治幸	55
自治研活動レポート	労働組合のあり方を見直す—福井県本部	高橋亮太	58
静岡自治研記録	第５分科会◉コロナ禍の平和運動を探る	西尾祥之	60
	第６分科会◉災害に強いまちづくり	奥田龍弥	62
	第７分科会◉まちおこし ［午前］地域おこし協力隊の理想と奮闘 ［午後］密着！自治体ＳＮＳ	千葉　猛 / 楳田博之	64
	第８分科会◉自治体DX最前線！	村野祐輔	68
	第９分科会◉SDGs×生活×自治研 ［午前］私のＳＤＧｓ ［午後］子どもの貧困とＳＤＧｓ	音羽智樹 / 本田恵美子	70
	自治体の雑誌案内		75
	次号予告・編集部から		76

これを読め！

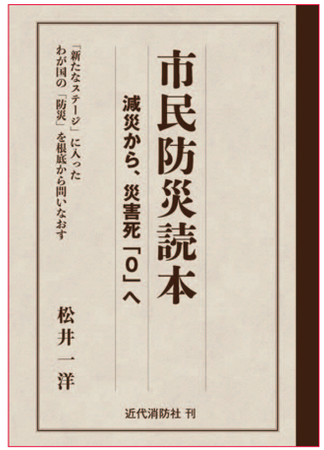
『市民防災読本 ——減災から、災害死「0」へ』

近代消防社、一五〇〇円

松井一洋 著

トルコ・シリア地震と阪神大震災

増え続けるトルコ・シリア大地震の犠牲者の報に接しながら、本稿を書き始めた。ともすれば無力感にさいなまれる。著者は一九九五年一月、関西の鉄道会社に勤務していて被災、その経験が後の人生を変えた。「鉄道全線ストップ」の第一報を発信する。災害情報を発信者側から見て活動、研究を進めることとなった。NPO災害情報ネットワーク理事長。



災害の日々を振り返って

第一に、災害発生時、社会構造として何が不足、どこが不備だったのかを洗い出していく。地球温暖化、気象災害が激甚化する「新たなステージ」において、「危機発生時の強制避難」の必要性を説く。災害対策基本法もその方向に舵を切った。「市民」「読本」といった書名から受ける印象とは裏腹に、ストレートな問題提起から始まる。なおかつ、「行政依存」からも脱却するコミュニティの再生へと筆が進んでいく。

第二に、被災の辛さと悲しみに向き合うということ。癒しや倫理などに重きを置くのがこの読本の特徴の一つをなす。だから災害時の災害ボランティアと並んで、災害の前の、コミュニティの気持ちの底上げをする、防災ボランティアが絶対に必要になる。哲学、思想に論が及ぶのが特徴。レーニン、スターリン、サルトルまでが登場する。

根底から問いなおす

第三に、コミュニティと新しい共助。現在の孤立排他社会は災害に対しても脆弱だ。

第四に、防災リーダー、個々の市民に必要な情報の伝達や避難支援の重要性（マスから個へ）、教訓の伝承。

災害はいつも繰り返しながら思いもよらぬ方向、形で襲いかかる。世界的インフルエンザパンデミックも一〇〇年前、関東大震災から一〇〇年。この一〇〇年で市民防災力はどれほど向上したのだろうか。

「防災を根底から問い直す」という、論争的特徴に満ちた書。議論の過程で個の防災力が鍛え直されることに期待する。その討論の時間が与えられていることを祈る。

評者 **菅原敏夫** 本誌編集委員